

カトリック 大名町教会ニュース

DAIMYOMACHI CATHOLIC CHURCH NEWSLETTER

〔ミサ時間〕主日ミサ：(土)19時／(日)7時・9時30分／英語ミサ(日)16時

〔ホームページ〕<http://church.jp/catholic-daimyoumachi/>

〒810-0041 福岡市中央区大名2-7-7 〔巡〕能古島カトリック教会 ミサ(土)18時

Tel:092-741-3687 Fax:741-5107

〒819-0012 西区能古弁当 1621-12

発行責任者：杉原寛信神父

7

7月：祖父母と高齢者のための世界祈禱日(7月26日)！

福岡教区年間目標：ともに歩み 支えあっていく共同体

大名町教会年間テーマ：全ての人に対してキリストの光でありなさい！

Be the light of Christ to everyone.

7月のお知らせ

緊急事態宣言解除を受けて
形式になりました。

*コロナ禍での、地域割りでの主日ミサ

A地区：中央区・博多区
B地区：東区・南区・春日市・太宰府市・
古賀市・宗像市・篠栗町・糟屋郡・
那珂川市
C地区：城南区・早良区・西区・糸島市
*病者の塗油や葬儀などに相談ください。



緊急事態宣言中の主日のミサは、アベイヤ司教様が主式され、オンラインで教区のホームページを通して配信されていました。

オンラインで

九州青年キャンプin大分
*日時：8月28日(土)・29日(日)
*テーマ：ひとつになろう
*会場：オンライン(ZOOM)開催
◆詳細は、2面「青年会から」

勉強会

ジョン・ウォンチョル神父
・キリスト教入門講座(毎木曜日)
*WEBで配信されています。
*自宅で、どなたでも学べます。

初聖体

7月11日(日)

『愛のよろこび』家庭年(～2022年6月22日)

「聖家族の愛は、試練や苦境における喜びの源」。
フランシスコ教皇は、私達の家庭にナザレの聖家族の
息づかいを感じられるよう祈りますと。

ゆるしの秘蹟：希望される方は、司祭に直接ご相談ください。

コミュニケーションの重要性

対話(コミュニケーション)は社
会の中で重要なものです。日本では
報道相という言葉もあるぐらい対話
は人間と人間の間を繋ぎ、また社会
共同体を維持する血管と同じもので
す。では、この対話とは一体何か。
それを知るためにこの言葉の語源を
確認する必要があります。

英語のコミュニケーションはラテ
ン語の communicatio から来しました。
この単語の語源は communio で「分
け合う、一緒にする」という意味が
あり、また聖体拝領の意味を持って
います。この言葉をもっと調べる
と com と unio の一つの単語が合わされ
たことが分かります。com は「一緒
に」、unio は「一つ」という意味です。
ここで私たちはこの対話の本質につ
いて知ることが出来ます。対話とい
うものは何か。それはすなわち言葉
を通して二人がそれぞれの意見を一
致することです。

コロナ禍の中で人と直接出会う機
会が減り互いに顔と顔を合わせ対話
しにくくなりましたが、対話の本質
を考えながら互いの一致のきずなを
忘れないようにしましょう。

カトリック大名町教会 助任司祭
マルチエロア・パメヤ 鄭元喆神父

初聖体

教会学校から

7月11日(日) 10時半のミサの中で、3人の子ども達が初聖体式に臨みます。このコロナ禍の中で一生懸命準備しています。本人たちのためにもみなさんのお祈りをお願いいたします。

教会学校の子ども達は、教会の宝です。お祈りをよろしくお願いいたします。また、声をかけて励ましてあげてください。

教会学校リーダー一同

募集中

青年会から

大名町教会では、地区青年会とは別に、教会独自の青年会活動を行っています。

活動内容は、勉強会やミサ奉仕や、食事会などです。

神様への信仰を深めながら、カテドラルである強みを活かして、教会に来ることが楽しくなるような企画を考案中です。

コロナ禍のため開催できていなかった定例会も、近々再開予定です。

尚、大名町教会青年会では、メンバーを大募集中です。

18歳以上で大名町教会に通う青年の方。青年のお知り合いをご存知の方は下記のアドレスにご連絡をください。教会の中でお気軽な青年にお声かけく

ださい。お待ちしております。

ぜひ一緒に活動しましょう！

st8a1082@seinan-gakuin.jp

大名町教会青年会会長

マリア・パスカリヤ 林田明日香

九州青年キャンプ in 大分

- ・テーマ：ひとつになろう
- ・日時：8月28日(土) 13時～24時
- ・：8月29日(日) 13時～15時
- ・会場：オンライン開催
- ・参加費：なし
- ・対象：35歳までの青年
- *申込みなど、お待ちください。お待ちしております。

納骨堂管理委員会から

・7月の一般清掃は中止。役員で特別清掃。

・8月15日の追悼ミサは未定。

但し8月13日(金)・15日(日)間の、納骨堂開放は例年通りの時間(10時～15時)で開放いたします。

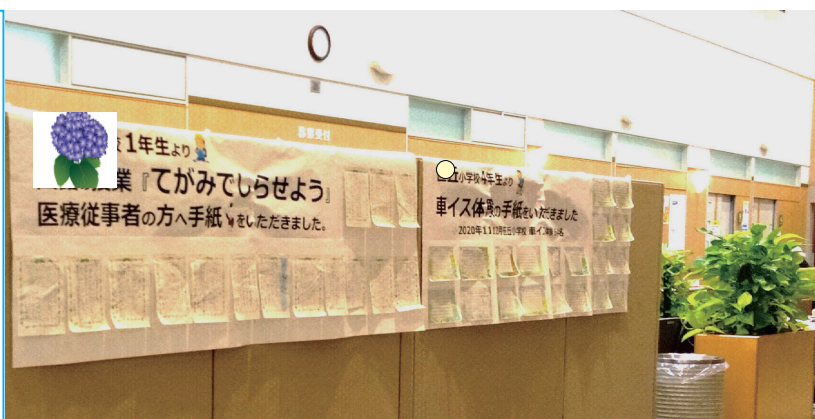
・納骨堂2号館に、共同奉安室が完成。祝別式は決まり次第お知らせいたします。

・納骨堂管理費について。

和田墓地に登録のある方は、5年ごと(今回は、2021年4月から2026年3月までの分)に管理費(25,000円)の振込みをお願いしています。未納の方は、必ず確認し振込みをお願いいたします。

・納骨堂管理についてのお尋ねは、豊嶋司までお電話下さい。(090・8413・7986)

コロナの終息を願って
小学生が医療者へ励ましの
手紙を送りました。



ある日、診察に行った病院の待合室いっばいに、「医療従事者の方へ手紙」がたくさん貼ってありました。医療者の方々の喜びもあふれていました。

医療従事者に感謝を届ける金曜日の教会の鐘は7月2日で59回目を迎えました。一緒に拍手をしながら通り過ぎる人、鐘楼の鐘にカメラを向けている人、そして声をかけてくださる人もいます。「教会でこんなことをしてくれていることを初めて知りました。ありがとうございます。」地域と共に歩む教会としてささやかな喜びがあります。

パウロ 吉田俊雄

福岡教区福岡地区
カトリック女性の会たより

・6月12日(土)に予定されていた、第38回女性の会総会は、コロナ禍の緊急事態宣言を受け、残念ながら今年度も稟議総会となりました。尚、総会資料は教会事務所でご覧いただくことができます。不明の点は、委員までご連絡ください。

・女性の会で毎年、大切に取り組んでいます8月27日の「モニカ祭」も、昨年は開催できませんでした。今年の開催については7月の準備会で話し合いを持つことにしています。決定次第ご連絡いたします。

・ボランティア・モニカ会の活動である、富の里老人ホーム、篠栗老人ホーム、栄光病院緩和ケアへの訪問ボランティアは、コロナ禍にあつて、活動を自粛しています。再開された時には、皆さまのご参加をよろしく願っています。

・福岡地区カトリック女性の会(会長・川原圭子)・笹丘教会信徒顧問司祭・S・オチヨア神父・イエズス会司祭)は、市内14の小教区から派遣された女性の代表者が集まり、祈り、研修、黙想などを通して互いの霊性を高め、各小教区での奉仕をはじめ、教区での行事、奉仕活動に積極的に参加しています。

カタリナ 内堀綾子

福岡おにぎりの会

たより

5月21日、コロナ緊急事態宣言中に大名町教会では、「福岡おにぎりの会の夜回り」のために200個のゆかりご飯パックを作ってくださいました。

先立つ4月の宣教司牧評議会でご飯パック作りは決定していましたが、緊急事態宣言が避けられない状況の5月の会議で杉原神父様は、緊急事態宣言下の医療現場でも食事を作っていること、路上で生きる人のいのちに関わることを避けられないことではないかとおっしゃいました。会議後、さつき委員総出で厨房の掃除やお釜の準備をしてくださいました。女性の会の代表の方々からも、お手伝いに来ますからと声かけをいただき、心から嬉しく思いました。

また先だって、杉原神父様からは、「炊き出しの協力を福岡地区の司祭集会で各教会にもお願いしたら良いでしょう」と、趣意書提出のご教示をいただいております。4月19日、神父様方がお集りの笹丘教会に福岡おにぎりの会の事務局長飛永薫さんと共に緊張してお願ひに上がりました。そして、6月笹丘教会、7月吉塚教会、8月高宮教会、9月西新教会、10月光丘教会にご協力いただくことが決まりました。

福岡おにぎりの会は、冬は毎週金曜日、4月から11月まで第1、第3金曜日に公園や寝場所など10カ所の炊き出し夜回りをやっています。昨年110人分だった配布数が170人分が増えていきます。



夜回りの現場や事務所には今、職を無くして路上生活を余儀なくされた若い人の相談や、同じく家賃が払えなくて食べるものがないと言った電話が多くなって、リーマンショックの時とは比べようもないほどの状況が始まっていると実感しています。

一方、苦しんでいる人々へ向けた優しいまなざしが、おにぎりの会にあふれています。寄せられた寄付金や食料などの支援の品々は、届ける者の励ましと喜びにもなっているのです。

アベイヤ司教様は6月6日のご聖体の祝日のミサの説教で、「人々を生かすためにいただいた、キリストのいのちを受け。イエス様の愛に応える教会共同体になろう。」と。

テレビア 原山 映子



かぜのささやき③

夜半に祈っていると、ひたひたと聖堂に近づく足音がした。入口に目を向けると小学生の女の子が私を見つめている。「眠れないの？何か困ったことがある？」と尋ねると「ううん。本当に祈ってるか見に来たの」と。

コロナ禍の中、修道会の集会はZoomやSkypeになり、終わるころには日本は夜中になっている。集会が終わってから寝る前の祈りのために聖堂に行くと夜半だ。それでも世界中の姉妹たちの明るい表情と出会うことができるのは本当に嬉しい。「共同体生活は修道生活の本質的な部分である。これを生きるとき、私たちは教会における一致のしるしとなる。会が選択した線に従って、共同体生活を計画し、使命を生きるように組織する。エウカリスタ（ミサ）は、わたしたちの共同体に生命を与える愛の根であり、樹液である。この愛は神体験を可能にし、兄弟たち（姉妹）ではなくて？」との交わりに変容し、わたしたちの徹底的な献身において人々に解放をもたらす。」（礼拝会 会憲）日本においては多世代共生の困難さがある。そして日本代理区に属するカンボジアやベトナムの共同体は多文化共生でスペイン・インド・フランス・ベトナム・アルゼンチンの国籍の姉妹で構成されて

おり、共通語の選択から困難を極めている。問題は山積みだが世界の姉妹が顔を合わせると意外に同世代の姉妹がいて希望を感じる。修道生活は共同体生活が基本であるが、共同体によってその在り様は様々だ。又今私たちは未来に向けて「新しいリーダーシップ」を見出そうとしている。教会や修道会だけでなくどこでも「パラダイムを打ち破る」ということが求められているのではないか。「新しい葡萄酒は新しい革袋に（マタイ9章）」という事だろう。私たちの場合は「礼拝の中で変容される」に任せる。PCやスマホでローマやアルゼンチンの姉妹たちと顔を見ながら簡単に分かち合いができる世の中になった。初めて会う礼拝修道女とでも共通の話題があり、すぐ話ができるのは大きな喜びだ。でも言葉の壁があり思うように気持ちを伝えられなくて寂しく思う時もあるのも現実だ。人はみなひとり、だからイエスを求め、人と繋がりたいと感じる。

「本当に夜中まで祈っているのね」と先の小学生。

「そう。私にはこの方しかいないの」私。「ふーん 意味わかんない」小学生。きつと今日も世界中の礼拝会でこんな会話が繰り返り広げられていると思う。変容されるに任せていると神様は時々こんなかわいいプレゼントも下さる。聖体と愛徳のはため礼拝修道女会

福岡修道院

Sr. 藤田優香

寄稿 たより

「もう70年近く前、カトリック大名町教会で初聖体をさずかった桑原稔子と申します。いま米国カリフォルニア州に住んでいます。」

手元にその時に頂いた一枚の絵があります。お馴染みの、少年サムエルが手を合わせて祈っている姿、裏に「初聖体のお祝いに」とあり、「一九五〇、クリスマス・フランシスコ・ザビエル小野」と書いてあります。このクリスマスに、私は小学2年生で初聖体を受けました。主任司祭の伊東誠二神父様からでした。

その頃の聖堂は、現在の聖堂が建て替えられる前の聖堂です。司祭館を中にして、向かって右側に聖堂、そして左側にはカトリック学生会時代「旧聖堂」と呼んでいた明治29年に建てられたという赤煉瓦の建物があって、そこで私たちはいろんな奉仕活動をしたり、ピンポンをして遊んだりしました。私の初聖体の頃のごミサはまだ対面式ではなく、本聖堂の祭壇には、現在の聖堂前にあるマリア像が高々と安置されていたのを覚えています。子ども心に美しいご像だなあと、思っているのも見上げておりました。初聖体は私一人でした。当時雙葉学園の主事をしていられた父の友人の小野先生や父が祝ってくれました。聖堂の後ろまで信者さんでいっぱい、なんだか緊張をしたことを覚えています。その後、毎日曜日のごミサに当

時住んでいた香椎の手前の名島から通っていました。当時は前の晩から飲食ができなかったこともあり、ごミサの途中で何度か脳貧血を起こして、その度に父に担がれて、当時、司祭館でお世話をしていたら、畠山しげさんのお部屋で休ませていただきました。とても穏やかなおばさまで、必ず生卵を飲ませてくださるのですが、それが始めとても苦手で、「はい、ゴクンと飲んで」とおっしゃる畠山さんのために、目を瞑って必死で飲みました。結果はいつも元気になったのでした。

この畠山しげさんの御息がその後、司祭におなりになった畠山七郎神父様です。

私たち家族が、名島から大牟田線の大橋に引っ越したのは1952年（昭和27年）の春だと思っています。その時から私たち一家は新装なったばかりの高宮教会に通うようになりました。そして大學生になつてから、また「カトリック学生会」のメンバーとして、青年として、大名町教会・特に赤レンガの聖堂でたくさん司祭や信徒の方々と関わりを通して、信仰の礎をいただきました。

私は今、1993年以来、カリフォルニア州スクラメント教区のメアリーズヴィル市のセント・ジョゼフ教会に夫とともに所属しています。当市界隈はメキシコの人々が多いのでカトリックの信徒数は分かりかねますが、夫によると、日曜のごミサに預かったり、教会と何らかの繋がり

を持つ人数は3千人くらいではないかということです。

また教会には、いろんな活動グループがあり、日本でも親しんでいたヴィンセンシオ・パウロ会、レジオナリエなど、それ以外にも女性の集まりや、子ども達のカテキズムも盛んです。

主の平和で、世界が満たされますように。テレジア 桑原稔子

大名町教会6月の現勢

【転入】（…教会から）

・2月3日 洗者ヨハネ 濱辺 敏樹
テレジア 美子

（横浜教区厚木教会）

・6月4日 ヴイクトリア 木場 美樹

・ルチア リユウ シエフエイ
（箱崎教会）

（中国）

・【帰天】 6月30日 アンナ 佐田 ヒサエ（94歳）

会長のつづき

何をとしびとして生きるか

♪神のはからいは限りなく、生涯わたしはそのなかに生きる♪

コロナ禍、公開ミサ中止のなかでの散歩道、『悲しみ、苦しみ、重きもの、時が過ぎれば軽くなる』と思っていた。仏様やご先祖様が軽くしてくださると思つて慰めた。何のせいでも、誰のせいでもなかった。この重さこそわたしの人生そのものでありました。『街路に面したあるお寺

の言葉でした。

イエス様は『疲れたもの、私のもとにきなさい。休ませてあげよう。私の軛は軽いやすく、軽いからである。また私のあとに従いたいものは、自分を捨て、自分の十字架を担って私に従いなさい。』日々、たくさん荷を背負い、人生という旅を歩く私たちに具体的にみ言葉を通して教えられます。

信徒の皆様の心の中にはいつもみ言葉が宿っていることでしょう。ある日の西日本新聞、連載、坊さんのナムイ話の中にお釈迦様の最後の教えに『自灯明法灯明』という言葉があり、自らを灯火とし、仏の教えを灯火としなさいという教えを、それぞれの人生を歩む私たちが何を灯火とするのかの記事がありました。その日の日ごとの福音、『あなた方は、地の塩、世の光である。灯火をともした時、燭台の上に置く、こうすれば、家の中の全ての人々のために輝く。あなた方の光を人々の前に輝かしなさい。』まさに世は真理の灯火を求めているのでしょうか。

コロナ禍、世界の各国では民主化の廃絶、言論の自由を奪われ、独裁的な動きがみられる中、貧富の格差は拡大、身近に困窮者があふれる中、人間の強欲によるものではなく、聖霊による救済が必要ではないでしょうか。父と子と聖霊のみ名によって、アーメン

大名町教会信徒会長
フランシスコ・ザベリオ

濱崎 公夫